

## 浦野幸男

浦野君、今ここに君の御霊に対し最後のお別れの言葉を述べなければならぬことは、私にとってまことに断腸の思いであります。

去る十六日朝、私は君を病床に見舞うべく身支度をしていたとき、あえなくも君の訃報に接したのであります。高い絶壁からつき落とされたように、私は、全く為すべきことを知らず、呆然自失してしまいました。漸く氣をとり直して重い足を労災病院に運びましたが、その時は、すでに君は物言わぬ変わり果てた姿になっておられました。

第八十回国会は与野党伯仲の状況の中で開かれようとしております。今その中に君の英姿を再び見ることができないことは、君を愛惜し、君を思慕する多くの人々の深い悲しみであります。

君と私は昭和三十五年、君が中央政界に進出されて以来の同志であります。池田内閣の誕生を始めて、幾多の政治上の大きな問題に直面してこれと取り組み、日夜苦業を共にした仲であります。君を失ったことは、私にとって全く片腕を失うにも等しい思いであります。

君は昭和二十六年以来、愛知県議會議員に当選すること三回、次いで昭和三十五年、衆望を担って衆議院議員に初当選以来、昨年暮れの総選挙まで引き続き六回の当選を果たされたのであります。その間、自由民主党の商工部長、衆議院の商工常任委員長として一貫して日本の商工業の発展、中小企業の振興、対外貿易の伸展に全力を傾けられました。また、自由民主党の総務、副幹事長として複雑にして困難な情勢の下において、党運営に終始貢献されたのであります。

次いで君は昨年九月、三木内閣に入閣し、労働大臣に就任されたのであります。時あたかも交通ストライキを含む統一秋季闘争の時期に際会したのであります。君は持ち前の円満な性格と、バランスのとれた判断をもって、この難問を見事に解決して、社会経済を根底からゆさぶるこの危機を巧みに回避されたのであります。その水際だった成果は、今なお、国民の記憶に新たなところであります。

なお、昨年暮れの臨時国会における総理大臣の指名という国家の大事に当たっては、君は医師の勧告をも退けて、医師、看護婦の付添いの下に、病軀を押して登院され、衆議院議員としての職責を立派に果たされました。

このことは、君の政治家としての旺盛な責任感を示すものであったが、あの時の本会議場に不滅の光彩をはなれたたものであり、くすしくも君の政治家としての最後を飾る仕事になったのであります。

君はまた、副幹事長、次いで労働大臣としての激務を果たされながら、総選挙中、同志の応援のため東奔西走されました。このことが、君の死期を早めたことは明らかであり、君は政治の場における貴い犠牲となられたと申しても過言ではありません。

愛知県ばかりでなく、日本の政界は、高潔な人格、豊富な経験、均衡のとれた判断力、さらには、誠実で実行力に恵まれた政治家、浦野幸男君の将来に期待するところ多大なるものがありました。したが、忽然として幽明境を異にされたことは、惜しみても余りあるところでもあります。

これからの日本の進路、政界の将来に思いを致しつつ、逝去された君のご心情、さらに、ご遺族の悲しみを思えば、惜別哀悼の念またひとしおであります。

残された私ども同志は、一致結束して、君のご遺志を体して祖国日本のため、保守政治再建のために、全力を尽すことを君のご霊前にお誓い申し上げます。

浦野君、休息を知らずして働き続けた君であります。今はからずも君は、不本意ながらも、安息の時をもったのであります。せめて安らかに眠り下さい。そして祖国と郷里、さらにはご遺族の将来を温かく見守って下さい。

ここに君の徳を偲び、生前、君から恵まれたご友誼を追慕しながら、お別れの言葉といたします。